

令和4年度 相談支援従事者指導者養成研修 地域づくりコース

まとめ

地域共生社会を概念で終わらせないために

特定非営利活動法人日本相談支援専門員協会 顧問
一般社団法人兵庫県相談支援ネットワーク 代表理事
社会福祉法人西宮市社会福祉協議会
権利擁護普及推進及び相談支援アドバイザー

玉木幸則

「地域共生社会」って いうけれどどんな社会？

ボクにとっては、なにかしっくりと響かなく、居心地さえも悪く聞こえてくる。

「キレイ事」のようにさえ聞こえてくる。なぜだろう。

2019年末、ある県教育委員会の社会教育課課長と「近畿・中国ブロック共に学び、生きる共生社会コンファレンス」(文科省主催事業)の打ち合わせをしていたときのこぼれ話。

→ 「昨日、とある国から来て日本で暮らしている人と話したら、『共生社会』っていうのは、日本だけですよ」と。

では、「なんていうんですか」と尋ねたら、「強いというなら『協働社会』ですかね」と言っておられました。

→ **気になったので、調べてみました。**

安易に

「共生社会」って

使いすぎかも！？

「共生」から「協働」へ

- ・「共生」とは・・・生物学用語からきている。

一般の通念とはちょっと違って、生物学においては「共生」と「寄生」は対立概念では決してなく、むしろ前者は後者を包含する上位概念として捉えるべきものと位置づけられている。

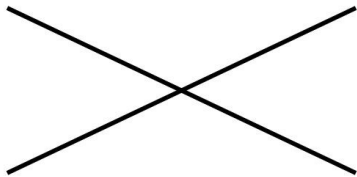
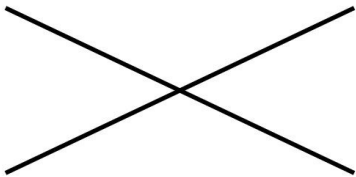
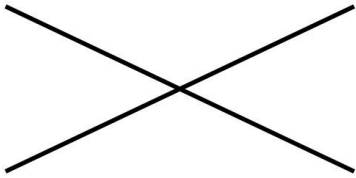
「共生」という言葉のまとう理想的、ユートピア的なイメージには過度に惑わされない方がよい。表面的には調和的、平和的、利他的にみえる「共生」関係においても、一皮むけば多かれ少なかれダイナミックな緊張関係があり、当事者間のパワーゲームという側面があるのだ。たとえ美しい理想を「共生」に見だし、その実現をめざす高貴な精神であっても、いやあるからこそ、共に生きることの本質から目をそらすことはできないのだ。

「共に生きるということの本質」 深津武馬
講談社 雑誌「本」 2004年12月号

共生 Symbiosis

生物 A

生物 B

	得をする +	損をする -	どちらでもない 0
得をする +	相利 mutualism		
損をする -	寄生 parasitism 捕食 predation	競争 competition	
どちらでもない 0	片利 (偏利) commensalism	抑制 (偏害) suppression	中立 neutralism

いろいろな人がいることが前提で
意見が合わないからといって
『排除』しない。

その人たちとのすりあわせを
どのようにしていけば
納得して生きていくことが
できるのか考えていく必要がある。

コンフリクト

競合、衝突、対立、葛藤、緊張、紛争など

・ **バリアフリーコンフリクト**は、バリアフリー化が浸透したことにより、特定の障害のためのバリアフリー化が他の障害のある人や障害のない人にとっての新しいバリアとなる問題が生まれている。例えば、点字ブロックにより、車いす利用者が移動しにくくなり、それに高齢者がつまづくこともある。また、段差の解消が白杖使用者の手がかりを奪うといったケースもある。残念ながら、こういったバリアフリー化によるコンフリクトの多くは十分議論されていないのが現状である。

(中邑賢龍／東京大学先端科学技術研究センター教授)

・ **施設コンフリクト**は、一般的に「社会福祉施設の新設などにあたり、その存立が地域社会の強力な反対運動に遭遇して頓挫したり、あるいはその存立の同意と引き換えに大きな譲歩を余儀なくされたりする施設と地域の間での紛争事態」と概念づけられている。

「施設コンフリクトの解消に向けて」大阪市社会福祉協議会『福祉と人権』研究委員会 2008年11月

近年、気になるトピック

- LGBTQに「生産性がない」の意味
推進法案ストップ「周りにいないからわからない」
と未だに言う人たち
- 子どもの虐待事件（今も若い命が失われている）
- 児童相談所 救護施設 保育所
グループホームなどの建設反対運動 （施設コンフリクト）
- 旧優生保護法訴訟 新型出生前検査の拡大
- 相模原障害者殺傷事件 神出病院事件
なかなか収まる気配がない様々な虐待事件など
- 新型コロナウイルスにまつわる『クラスター』や『治療』などの
問題。いろいろ、気持ちがざわざわしてしまうだろう…

きれいごとだけでなく、時に、対峙して、アカンことはアカンって主張して「対話」を重ねていくことも必要になる。

この「対話」を重ねていくことが、本来、言われている『合理的配慮』につながっていくはずである。

大切なことは、今できることから考えていくことだと思う。

「協働」とは！

- 協力して働くこと。
- 「協同」も「協働」も、同じ目的に向かって物事を行うという意味では同じだが、「協同」は役割分担が事前に決まっていることに対し、
- 「協働」は、それぞれができること、得意なことをする場合に用いられることが多い。
- 「協同」より「協働」の方が、より一緒に行動するという意味合いが強い。

「地域共生社会」とは 「地域協働社会」であること

それは、「多様性」を認め合い
ともに「学び」 ともに「育ち」
ともに「働き」 ともに「暮らす」社会づくり
『差別』や『排除』などを取り除いていきながら、
誰ひとり取り残されられない地域づくり
をすすめていくことが重要となっている。

正に相談支援専門員の
「価値」が問われている。

だから、より丁寧に
誰もがとともに
生きていける社会
と言っていきたい。

誰ひとり取り残されることなく

ともに生きていくことができる
社会をめざして